長野県植物研究会誌　31:46～47　1998

長野県植物誌データベースの今後

金井弘夫（小金井市前原町5-8-7）

Hiroo KANAI: Fate of "Flora of Nagano Prefecture" Database

長野県植物誌は延々20年を費やして刊行の運びとなった。当初からデータベースの運用に関った一人として，ホッとした思いである。このように大きなデータベースをパソコンで扱うことは，今日では大した負担に思われないかも知れないが，数年前までなら「無理してるナ」というまなざしで見られていたのである。いつ，どんな原因でデータが壊れてしまうか，戦々恐々と過ごしてきたし，実際に壊れてしまって，回復に四苦八苦したこともある。今後そういう思いをしないで済むだけでも，かなりのストレス解消なのである。だからといってデータベースを放り出してしまうのは，まだ早すぎる。さしあたり1セットを長野県植物研究会に納めたが，これは作業中のものをとりあえずコピーしたもので，誰もが使うためにはたくさんの点を改善せねばならない．その一部は植物誌に書いておいたが，ここでもう一度記して今後の参考とする。

A. 項目仕様

植物誌で記述した仕様のほかに，実はいくつかの項目がある。すべてを記すと以下のとおりである。説明の便宜上，番号をつけておく。(　)は項目幅である。

1. (3)地区コード．協定済みのもの
2. (9)地名カナ．最小地名が原則．促音は使わない
3. (8)位置座標．Locality Index
4. (2)高度．100 m単位
5. (3)年．西暦下3桁
6. (1)月．10，11，12月はそれぞれ0またはX，Y，Z
7. (7)採集·記録者英字．複数でも先頭一人のみ．大文字
8. (4)採集番号．右寄せ
9. (1)資料種別．7=標本，8=文献，9=野帳，ノート
10. (1)状態．1=花，2=果実，3=その他
11. (4)所蔵標本室．信州大はSHIN，国際記号のある標本室はそれを使う
12. (6)標本番号．右寄せ
13. (6)科の学名．大文字．8桁にして混同がないようにする
14. (6)属の学名．大文字
15. (6)種小名．大文字
16. (6)種内群の小名．大文字
17. (7)和名．促音は使わない．同定が否定されたものは先頭に？を付ける
18. (8)地区漢字．地区コードから翻訳
19. (12)地名漢字．地名カナからわかるものだけ
20. (12)採集·記録者漢字．英字からわかるものだけ
21. (1)作業用コード．作業中特定のレコードをマークしたいとき使う
22. (6)レコードの出所．どこから金井のところへ来たか

カナや英字の項目で「促音は使わない」とか「大文字」とか書いてあるのは，文字種が少ない方が検索やソートのとき気楽にできるからである。

18，19，20については，今後一般に使うためには必要と考え，とくに地名漢字についてはできるだけ補うようつとめて来たが，まだ空白が多い．今後採集者本人にたずねるなどして充実させる必要がある。採集者名については植物誌で書いたように，英字の幅が狭かったために漢字に直せないものがあるが，これも多量のデータに関わる人はごく少数なので，そういう人にまず確かめれば，かなり確定できるだろう。

B. 追加すべき項目

23. レコード番号．レコードの特定には標本番号が有効と考えているが，植物誌のデータには標本以外の文献やノートの資料があり，他機関の標本もあるので，標本番号だけでは個体識別できない。そこでこの項目を設け，現在のレコードすべてに固有番号を与えておく．この番号は変更しない。もし二つのレコードが同じものとわかったときには，一方はレコード番号を残して空白レコードとし，

その空白へ相手のレコード番号を記録しておけばよい。項目の内容，たとえば植物名，に変更があるときは，レコード番号を添えて公表すれば，誤解なく伝わるだろう。

今後追加されるレコードにはレコード番号を与えないでおく。このデータベースは今後複数の人や場所で扱われる可能性があるので，互いの連絡なく番号を与えれば，混乱の元となる。ある時期がきたら，どこか一箇所にそれらを集め，マージさせたうえで追加のレコード番号を与えるようにすればよかろう。

24. 位置座標系識別コード．現在採用されている位置座標はLocality Indexだけだが，今後は国土基準メッシュだの経緯度など，多様なメッシュ系記録を混在させ得るようにしておかないと，データの互換がやりにくい。そのために，どういう系のコードを使っているかを示す項目が必要である。私が現在使っているのは，Locality Index (C)，三次メッシュ(K)，経緯度の分(U)である。

25. 科の配列番号．リストを作るとき(たとえばチェックリスト)，なんらかの分類系に従って配列する必要がある。そのためには分類系の中の配列順序をもつ項目がなければならない。現在のデータベースにはこういう項目がないから，必要なときには科の学名をシソーラスとマッチングさせ，その番号と入れ換えて用いている。現在，科の項目には，科学博物館の配列番号が入っている。こういうやり方でもかまわないのだが，数字になってしまうとどういう科であるかがわからないので不便である。だから，科の学名と共に分類系内の配列番号が入っているほうが有用である。ただし，科名を変えるとその番号も変えねばならないので，管理に気をつかわねばならない。

C．データの訂正

植物誌に記したように，このデータベースにはたくさんのエラーが含まれている。誰もが安心して使えるためには，できる限りそれらを正しておかねばならない。とは言っても，こういうことを集中してやることはとてもできないので，時間をかけて少しずつ改善して行くほかない。差し当たり，採集者名と年月の対応に矛盾のあるレコードをチェックしてもらおうと考えている。現在のデータベースでは，多くの方々はきわめて幼少の頃から植物誌に貢献していることになっており，中には生まれる前から熱心に採集しているという記録もある。これらは少しずつまとめて，該当する方に送って訂正確認を求めようと準備している。これをやる過程で，カナ書きではわからない採集地名の漢字化も実現できるので，データベースの改善に貢献するところが大きい。

もう一つ頭が痛いのは，地区コードと位置座標の矛盾であるが，これは今のところ訂正の手段を思いつかない。うまい方法があったら，教えていただきたい。

長野県植物誌の未確認種について

金井　弘夫 (小金井市前原町5-8-7)

Hiroo KANAI: On some unconfirmed species

次の5種について手元の資料で調べた情報を記す。

ハマエンドウ：飯山市でハマエンドウの群生地発見．植物と自然5(9): 35 (1971)。

ヤマアイ：歌川義男　軽井沢採集記　野草17(148): 5 (1951)。原・金井。日本種子植物分布図集1．Map 25(1958)では「誤りと思う」とコメントあり。野草復刻版(1985) では削除されている。

イワナンテン：原・金井．日本種子植物分布図集1．Map 38(1958)には木曽谷に2ケ所文献マークあり。出典は記録されていない。奥山春季：原色日本野外植物図譜(1958)には，長野県南部に1分布点あり。

ヒメシャラ：原・金井．日本種子植物分布図集1．Map 29(1958)には木曽谷に一ケ所文献マークあり。記事には「坂口勝男。木曾御料林及其付近の植物(1941)にも本種がでているが検討を要する。」とある。マークの出典がこの文献であるか否かは不明。

アマチャ：信濃町富ケ原で栽培。1996年，車で通りすがりに土地の人に「あれがそうです」と教えられたもの。